

奈良 いのちの電話

2023
春
第392号

特集 子ども虐待とは ～虐待に悩む「変わりたい」人たち～

一般社団法人 MY TREE 理事 栗本 久仁子 氏

社会福祉法人 奈良いのちの電話協会

事務局 / 〒631-0816 奈良市西大寺本町8-27



TEL : 0742-35-0500

FAX : 0742-35-0533

e-mail : nid@nara-inochi.jp



撮影
石津雅人

朝露や無縁地蔵のよだれがけ
草少し地蔵の膝に萌えんとす

正岡子規
寺田寅彦

ならまちのお地蔵さん (2003年撮影)

風鐸

単身赴任を始めてはや1年を迎えようとしている。単身赴任前は、妻は出勤・私は在宅勤務であったことから、子ども達からすると私が家にいるのが当たり前、妻からすると主夫がいる生活であった。我が家はどうか？不安を抱えての単身赴任スタートだった。救いは、妻の趣味が神社・仏閣巡りだったので「気軽に奈良に泊まりでいける」ことだった。

なにはともあれ、新生活がスタートし最初に訪れたのは想定通りの「ワンオペ」の壁だった。全ての家事が妻に集中した

結果、私は妻からの日々の苦労話を聞く電話対応係を仰せつかり、傾聴の日々が始まった。次の変化は、子ども達の成績であった。学校から帰宅後が全て自由時間になってしまい勉強がそっちのけになったのが主要因のようで、私の役割である妻からの電話対応係は大忙しに。そんな日々の中で、自宅に帰ると私が在宅勤務中に使っていた机が長男に占拠され、次に帰ると寝室も彼の占有スペースへと変化していた。今では自宅に残っている私の占有スペースは、ゴルフバック置き場だけになってしまった。

ただ、悪いことばかりでもない。ワンオペで疲弊している妻を気遣ってか、子ども達が各々家事を手伝うようになった

り、時折ではあるが自主的に勉強をするようになったりと、環境変化に応じて成長してくれている側面もある。妻からの電話対応係も、妻との日々のコミュニケーションとして捉えれば、単身赴任前よりも増えているようにも思う。また、私が自宅に帰る時には子ども達が、一緒になって迎えに来てくれるようになった。そして何よりも、様々な観光資源や歴史ある奈良に多く触れ合う機会が増え、家族で奈良に遊びに行くことを楽しみにしている。

あと何年かは奈良で勤務させてもらえらると思うので、これからの家族の良い変化と奈良の探求をセットにして単身赴任生活を楽しみたい。次は吉野の桜を家族で見に行こう。(達)

寄り添い人を訪ねて XII



子ども虐待とは ～虐待に悩む「変わりたい」人たち～

一般社団法人 MY TREE 理事 栗本 久仁子 氏



栗本 久仁子 氏 プロフィール
 子ども虐待に至ってしまった親の回復のためのMY TREEペアレンツ・プログラムのファシリテーターとして奈良県で活動
 一般社団法人 MY TREE 理事
 MY TREE ペアレンツ・プログラム認定トレーナー

で、子どもの側にとって有害な行為であれば虐待と、子ども視点で判断をし、虐待は何人も行ってはならないとしています。加害者は保護者とは限りません。きょうだい、親戚、知人、保育士、教師など身近な大人の場合もあります。しかし加害者の更生や回復に対しては国の法的な制度がありません。

まだ寒さの厳しい2月5日、奈良いのちの電話で「虐待」に関する専門講座が開かれました。「虐待」は近年さまざまな事件が起きて子どもが犠牲になる深刻な事象のせいか関心が高く、定員を超えるたくさんの人が集まりました。いのちの電話にも、子どもの頃に受けた虐待の傷を抱えた人からの電話がかかることがあります。そんな時どう対応したらいいのかについてのヒントと、栗本さんが活動しておられる、虐待に至ってしまった親の回復と支援を目的とした「MY TREE ペアレンツ・プログラム」について、ワークを交えながら話していただきました。

また、講座後には、MY TREE 奈良 グループの活動に対する思いや実情について、広報係でインタビューしました。

◆ 奈良いのちの電話と私

現在「眠らぬ電話」として活動を続けておられる皆さまに敬意を表します。私はこの奈良いのちの電話とは浅からぬ関わりがありました。私が県職員になり、児童相談所を管轄する部署で働いていた頃、奈良いのちの電話の立ち上げに関わっておられた藤掛永良先生が声をかけてくださいました。県では福祉関係の部署で36年働きました。多様な人生との出会いは私にたくさんの学びをもたらしてくれました。児童相談所で子ども虐待に関わるようになり支援の仕方に迷いを感じるようになった時、エンパワメントの視点が土台の虐待加害者の回復のためのプログラムに出会いました。この活動に関わって9年になります。

◆ 児童虐待とは子どもにとって有害かどうか

全国の児童相談所の虐待相談対応件数は2021年（令和3年）には1日平均569件あり、4～5日に1人の割合で子どもの死亡が報告されています。2000年に制定された児童虐待防止法では、身体的虐待・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待を虐待と定義しています。保護者の意図は無関係

◆ 「産まなきゃよかった」児童虐待の種類と事件

- 身体的虐待…殴る、蹴る、赤ちゃんを揺さぶったり、風呂で熱湯をかけたりする。保育士が子どもを逆さに持ち上げたり、布団で巻いたりする事件があった。
- 性的虐待…数字の上では虐待全体の1.1%しかないが、埋もれているだけで実はもっとある。性被害に遭うのは女の子だけではなく男の子にもある。性加害した人が子どもの頃性被害に遭っていた場合もある。誰にも言うなと強要されたり、母が見て見ぬふりをしたりして、子どもの心を二重に傷つける虐待で、解離性障害などを引き起こすこともあり、「魂の殺人」と言われている。
- ネグレクト…暴力ではなく、大人の生活スタイルに起因する虐待。ゴミ屋敷で何日もお風呂に入っていない、汚れた服を着ている。親が家や車に子どもを放置する、医療を受けさせない医療ネグレクト、学校に行かせない教育ネグレクト等もある。背景にDVがあって、同居人からの虐待を母親が放置し子どもを守れないというような事件もあった。
- 心理的虐待…件数としては一番多く、子どもに心理的ダメージを与える。「産まなきゃよかった」「死ね」などの言葉による脅し、拒否、無視、他の兄弟との差別、自尊心を傷つけること、子どもの面前でのDV、過剰な期待などがある。以前田原本で進学校に通う高校生が自宅に放火して全焼させた事件があったが、その背景には父親の虐待があった。

◆ 体罰としつけ

虐待する親はよく「これはしつけだ」と言いますが、虐待の定義は親の意図に関係なく、子どもにとって有害かどうかということです。2020年には体罰を禁止する法律ができましたが、日本には体罰を容認するような風潮が根強く残っています。何回言ってもわからない時には体罰も必要だと思う

人は多いのです。しつけは、子どもが将来社会生活をきちんとおくれるように、自立と自律が出来るようにするためのもので、体罰とは違います。痛みを教えるために、子どもに痛みを与える（たたく）ことはしつけではありません。理由があれば人を叩いてもよいと教えていることになります。体罰とは、大人の力を濫用した人権侵害の行為なのです。

❑ 背景には体罰容認とストレス、孤立

体罰は時には必要と考える人の中には、多重のストレスを抱えていたりする場合があります。夫や親との関係が良くないとか、子どもが障がいを抱えているとか、経済的な問題とか、過去に傷ついたことがトラウマになっている場合もあります。そして近年多いのが、ワンオペ育児で孤立してたり、本音で話せる友だちがいなかったり、ママ友間の競争があったり、他者の評価が気になったりする、そういう苛立ちを子どもにぶつけてしまうということです。それがエスカレートして深刻な虐待になることもあります。

子育て中に怒りの気持ちが沸くことは当然あります。そういう時には、自分が怒っているということに自覚し、言葉で子どもに伝えるのです。そうすることで良好な関係は築けます。子育てには「待つ」ということが大切です。

資料 体罰の6つの問題性

(出典 森田ゆり著「しつけと体罰」)

- 1 体罰は大人の感情をぶつけていることが多い
- 2 体罰は恐怖心をあたえることで子どもの言動をコントロールする方法
- 3 体罰は即効性があるので、他のしつけの方法がわからなくなる
- 4 体罰はしばしばエスカレートする
- 5 体罰はそれを見ている他の子どもに深い心理的ダメージを与える
- 6 体罰は時に取り返しのつかない事故を引き起こす

❑ 虐待に悩む人の対応で心がけていること

子ども像（親や国が期待する人間像へと導く育成の対象と見る）ではなく、子ども観（子どもを一個人として尊重されるべき人格と見る）の視点が大切です。またエンパワメントの視点で、短所として出されたことをプラスに言い換えることで、あなたは大切な人だよとその人の強み、長所にフォーカスし、気づきを促すこともあります。虐待をした人も、虐待をされた人も、深い傷つきを思い出してしんどくなることがありますが、その時の気持ちを言葉にして語ってもらいます。ただ、悔しさや怒り、自信の無さ、絶望感などの感情が抑圧されたままでは人は変わっていかないので、怒りの仮面やそれを隠すために二重につけているほほえみ仮面をはずしていかないといけません。「救う」「治す」ではなく、対等な関係で当事者の味方になることと安心できる場を設定することが何より大切です。

❑ MY TREE ペアレンツ・プログラム

いわゆる養育支援とか良い親になるためのプログラムではありません。対象者は支援・介入を必要とする、虐待的言動がある人で、目的はセルフケア力と問題解決力を回復し、虐待を終止することです。このプログラムで、子ども虐待とは、今まで人として尊重されてこなかった痛みや悲しみを怒りのかたちで子どもに爆発させている行動と定義しています。参加者の多くは、これまで褒められた経験が無い、自分を好きになれない、価値の無い人間だと思う等、自己肯定感の低い人たちです。そんな人たちが人として尊重される経験を積み、生まれながらに持っている人としての力を回復させるプログラムです。

❑ インタビュー「MY TREE 奈良 グループ」の取り組み

奈良県では2014年から4年間、県の「家族再統合支援事業」として実施されました。その後は天理の「子育て支援サークル野の花ほっとスペース」が母体となり、民間の事業として橿原の会場で続けています。参加者は児童相談所や市町村の虐待相談窓口、保健センターなどから案内されてくる人や、配布した募集チラシやMY TREEのホームページを見て自分で申し込んでくる人がいます。皆さん「変わりたい」という思いで来られます。

約半年で13回のセッションと同窓会、3回の個人面接。1回2時間の前半はワークで、後半は1人3分間のトーク。構造化されたカリキュラムを用い、10人程度のグループで行います。参加者は本名ではなくマイツリーネームを名乗ります。自分の気持ちに向き合ってもらいます。誰にも否定されたり批判されたりしない安心・安全な場で、気持ちを言語化することで気づきが深まっていきます。時間が限られているから自分の時間を大切に語られます。自分を語る言葉、気持ちを語る言葉が増えてきます。語りきったら話し手の気持ちの整理ができて、そのうちに子どもに対する感情や関わり方が変わっていきます。奈良では母親向けのプログラムをしていますが、大阪など父親プログラムを実施しているところもあります。

今後の課題は人材の育成と資金です。プログラムの実施には必ず3人のファシリテーターが必要です。参加費は無料で、保育料もテキスト代も無料。公的な支援がないので、会場を借りる費用や保育のための費用は、すべて寄付で賄っています。子ども虐待に至ってしまった親の回復支援の必要性を皆さんに理解していただき、協力・支援して下さる個人や団体が増えることを願っています。(M) (A・Y)

お問合せ

一般社団法人 MY TREE
事務局携帯電話：080-3785-2001
E-mail：mytree2001@gmail.com
URL：https://mytree-p.org

多様性の時代に

つなぐ ⑫

～ 移動を考える ～

奈良女子大学 学長 今岡 春樹

2019年1月11日に奈良女子大学で第4回アジアコスモポリタン賞受賞者のリチャード E. ボールドウィン氏の講演がありました。世界の経済史を、「物・情報・人」の「移動コストの低下」によって概括したのです。私は学生と共に聴講し、その論理のシャープさに感動しました。「物」は鉄道や航空機などの発展により産業の在り方が変化したことで、「情報」はインターネットの発展によりオフィスワークが一変したことで、理解が容易でした。3番目の「人の移動コスト」は当時イメージが鮮明ではありませんでした。

2020年2月1日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症に指定され、社会は混乱しました。急速に世界規模で感染が拡大したのは、航空機を代表とする人の活発な往来が原因であることは明白で、様々な水際対策が取られました。学校教育では対面授業をオンライン授業へと変更しました。オンライン授業ではWeb会議サービスを活用しますが、このサービスの急速な発展は驚異的で、国民の多くが活用する経験をしました。やっと理解出来ました。「人の移動コスト」とはWeb会議サービスに象徴されるソフトウェアの今後の発展を意味します。

最近メタバースという言葉を目にします。2009年「サマーウォーズ」、2021年「竜とそばかすの姫」が上映されました。時代感覚の優れた映画監督がいるものですね。当たり前に使っている言葉に「社会」や「会社」があります。「社（やしろ）で会う」ことが人間社会の基礎です。仮想空間技術によって「サイバー社（やしろ）」が作られ、若い世代はそこで思いっきり遊んだ経験をもとに友人を作りビジネスを始めます。

今私たち人類は自ら開発した情報技術にあふれた未知の世界に入り込んでいます。社会の基礎が揺れていますから価値の逆転や新種の価値がでてきます。あるものは継続し、あるものは更新されるでしょう。

最近「総合知」という言葉を聞きます。これはたくさん知っている事ではなく、異分野の知を集めてまとめることを意味します。まとめるという事は、ある「目的」が必要で、目的の吟味である「健全性」に関する感性が求められます。このような感性は小説や詩歌や演劇によって、また健全性を昇華した芸術に触れることで育まれます。大切なものはつないでいきたいと強く感じます。



第46期インターン就務式



12月24日46期インターン生の就務式が行われました。養成講座を修了した17名の受講生が2023年10月までの



間、電話実習研修に参加します。

森岡正宏理事長より、般若心経の教えを

説いた高田好胤師の「かたよらない心、こだわらない心、とらわれない心」で研修に取り組んでください、との言葉がありました。



新春交流会



1月14日（土）、新春交流会が3年ぶりに中国料理「百楽」にて開催されました。

今年は、29～31期生の皆さんによる隠し芸やフルートとギターのデュオの演奏が披露されました。コロナ禍の中で自粛を続けた3年間でしたが、いのちの電話事業を支える人たちとの交流の機会は大切だと改めて感じました。相談員の方たちも多く参加され



れ温かい雰囲気にもまれた時間を楽しく過ごしました。恒例のスローガンは、干支うさぎにちなんだ「耳立てて兎にかく聴こうしっかりと支え合う心で」が披露されました。

◆◆◆◆ 第45期インターン修了式 ◆◆◆◆

3月11日（土）第45期インターン生の修了式が開催されました。19名の受講生が研修を修了し協会相談員の認定を受けました。養成講座から始まってから1年半の研修を終えた参加者は、森岡理事長から修了証書を授与されました。

4月1日からは新相談員として電話当番の就務に入ることになります。 (K・M)

